

つ調査を進行する予定である。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「田代鉄五郎

渡部磨右衛門

瀧山藤兵衛」

240×(130)×10 081

人名が三名列記してあるが、その端部で板材は破損しており、本来はさらに人名が列記してある横長の板材だった可能性が高い。また、板材には穿孔が一カ所みられるため、未発見の部分とあわせ懸架していた可能性も考えられ、木橋に直接関わる遺物と推測される。

(五十嵐貴久)



秋田市教育委員会発行

『秋田城出土文字資料集』Ⅲ の刊行

一九八四年度の第三九次調査から、一九九八年度の第七四次調査までに出土した墨書土器全九二〇点について、出土遺構や墨書銘などの詳細なデータを掲げると共に、実測図・写真を掲載する。また、一九九八年度の第七二次調査で出土した漆紙文書（総点数三四点以上）について、整理作業が終了した九点の釈文・内容について概要が記されている。

A4版 一六八頁 二〇〇〇年三月刊行

頒価三〇〇〇円（送料三八〇円）

申し込み先

秋田城跡調査事務所内 秋田城を語る友の会

〒〇一―〇九〇一 秋田市寺内字焼山五六

電話 〇一八―八四五―一八三七

FAX 〇一八―八四五―一三二八